平成２７年度　史跡真壁城跡発掘調査　現地説明会資料

日　時　平成２７年１２月５日（土）　午前１０時30分、午後１時30分
場　所　国史跡・真壁城跡　（茨城県桜川市真壁町古城３７７ほか）

桜川市教育委員会　生涯学習課

１．史跡真壁城跡の概要

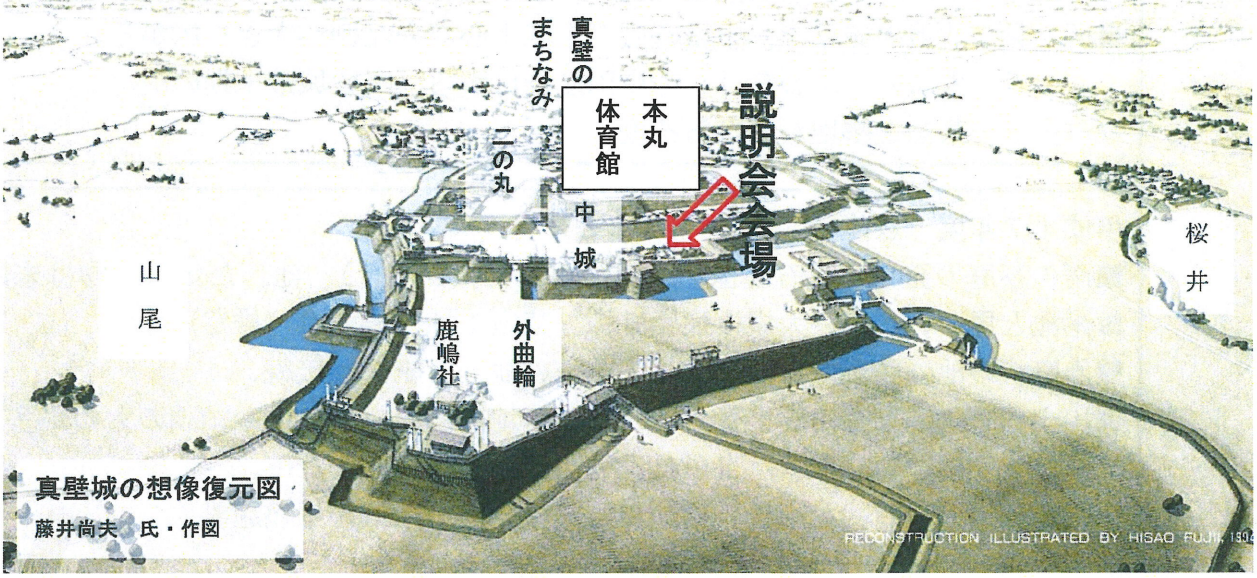
○国指定日：平成６年10月28日
○国指定面積：約12万５千㎡（城跡の東半分ほど）
○年　　代：室町時代から安土桃山時代（15世紀中頃～1602年）。発掘の年代。
○特　　徴：平　城。本丸を中心に周囲を二の丸、中城、外曲輪が囲む。
○歴　　史：平安時代末期、真壁郡に入封した常陸平氏一族の平長幹（たけもと）が初代。以後、真壁房幹が1602年に秋田移封するまで、当地を治めました。
○保存状況：堀、土塁、曲輪、城下町（真壁のまちなみ）が保存されています。

２．これまでの発掘調査　史跡真壁城跡保存整備事業（国・県補助）

平成９年度～平成22年度　本格的発掘（外曲輪、中城）
平成23年度～平成25年度　発掘休止（東日本大震災等の影響）
平成26年度　発掘再開。中城庭園・北池の発見。
平成27年度　北池調査（つづき）

３．平成27年度　発掘の概要

調査面積：５００㎡（H27年度分）
場　　所：三の丸に当たる中城中心部の北西域。第５１～５６地点　など
特　　徴：中城庭園内の北池部分
期　　間：平成27年８月から12月
調査主体：桜川市教育委員会　生涯学習課



真壁城の想像復元図
藤井尚夫　氏・作図

４．中城庭園の発掘調査

中城庭園とは・・・北池、水路状の池、南池、南の茶庭の池を中心とする庭園

○発見と経過

平成 12・13 年	中城庭園の発見（南茶庭、南池、石組水路等）
平成 16・17 年	南池・水路状の池の全面発掘
平成　　26 年	北池の発見
平成　　27 年	北池の発掘（つづき）

○成果の概要

平成２７年度

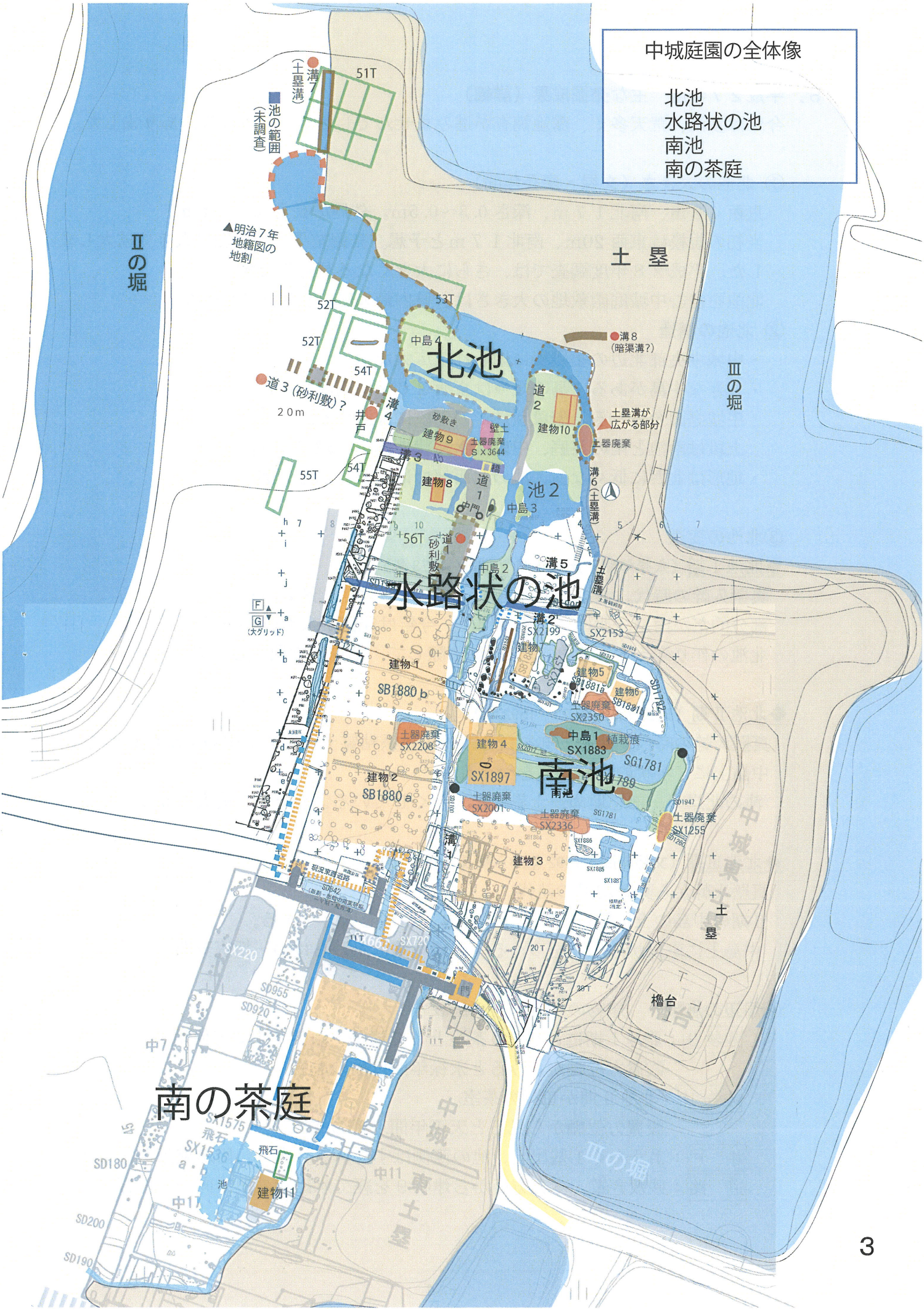
■目　　的：北池西部の調査。中城庭園全体敷地は 7,000 ㎡から 8,000 ㎡か。
■北　　池：西へ大きく広がりました。調査区外へ拡大。
■北池周辺：井戸、砂敷き道路、溝、石貼、景石を据えた跡。
■出土品：中世最高級の中国産陶磁器の座敷飾りや茶道具が、茶室周囲から出土。
白磁四耳壺、青磁花瓶、天目茶碗。年代は１２世紀～１４世紀。
■所　見：北池周辺は、池と２棟の茶室（H26 年度出土）のみで、最高級の道具による、最上の茶会や酒宴が行われていたようです。

平成２６年度

■北池の発見（東部・中央部）。南岸は砂敷き。北岸は土塁のすそ。
■水路状の池の範囲確定。
■北池周囲施設：南の茶室１棟。東の茶室１棟。6 畳ほどの小建物２棟。
※　茶室認定の根拠：天目茶碗や茶壺、壁土などが、周囲から出土したため。
■水路状の池周囲施設：茶室よりも小規模な建物。「待合」？
■露地（ろじ）　水路状の池から北池をつなぐ園路、飛石群、門跡　等。
■出土品：中国産天目茶碗。中国産染付磁器（文禄・慶長期）銅製箸、かわらけ。
■所　見：北池の発見で、中城庭園が中城中心部の北側へ大きく広がる。
大量の「かわらけ」や中国産染付から、真壁城最末期の池。
茶室と露地が広がる茶庭。

平成１７年度　以前

■南の茶庭の発見：飛石４基、土壁の小建物（西向き）、池。ただし建物は未調査。
■南池と周辺の調査　大規模建物３棟、茶室１棟、能舞台（推定）など
■水路状の池の調査　石組み護岸の細長い池。石組溝が接続。
■出土品：国産天目茶碗多数。ただし、他地区にないきれいな釉調のものが多い。
中国産陶磁器は青磁盤、酒会壺、染付碗・皿など。
■評　価：迎賓館的な施設。南池と水路状の池が中城の中核施設。


中城庭園の全体像
北池
水路状の池
南池
南の茶庭
Ⅱの堀
Ⅲの堀
土塁
北池
水路状の池
南池
南の茶庭
池2
溝7（土塁溝）
池の範囲（未調査）
▲明治7年地籍図の地割
道3（砂利敷）？
20m
井戸
溝4
溝3
溝8（暗渠溝？）
土塁溝が広がる部分
溝6（土塁溝）
溝5
溝2
溝1
建物1
建物2
建物3
建物4
建物5
建物6
建物8
建物9
建物10
建物11
中島1
中島2
中島3
中島4
道1
道2
中門
門
櫓台
飛石
池
SB1880 a
SB1880 b
SX1897
SX2153
SX2199
SX2350
SX1883
SG1781
SX2208
SX2001
SX2336
SX1255
SX3644
SD180
SD200
SD190
SD955
SD920
SX220
51T
52T
53T
54T
55T
56T
20T
28T
中城東土塁
中城東土塁
Ⅲの堀

５．平成２７年度　主な発掘成果（詳細）

今年は多雨、荒天多く、露地調査が進みませんでしたが、池は成果がありました。

① 北池の大きさ（文禄・慶長年間）

東西４６ｍ、南北１７ｍ、深さ 0.3～0.5ｍ。外周の長さは１２５ｍ。
当初の規模は東西 20ｍ、南北１７ｍと予想。発掘結果は、西側に大きく拡大しました。平成２８年度調査では、さらに大きくなる見込みです。
北池を含む中城庭園敷地の大きさは、県内最大級と推定しています。

② 北池の構造

・中城中央部北辺の土塁裾に掘られた広大な池。
・大きな中島がある。島の規模は東西２０ｍ、南北８ｍほど。
・中城庭園全体みると階段状地形の下段に位置する。
　上段は南池と南の茶庭、中段は水路状の池、下段が北池。
・地形は北西に低くなる。池の北西部では、堰や水路を想定。

③北池の変遷

◆北池Ⅰ期（永禄年間～元亀年間・1558－1573 年）

真壁久幹の時代。素掘りの深い池。南岸は砂敷き、景石あり。
部分的だが南岸、北岸、東岸が出土。今年は範囲がよく分かってきました。
北池の作り変えや、建物 10 の構築に際して、粘質土で埋められています。

◆北池Ⅱ期（天正年間・1573－1592 年）

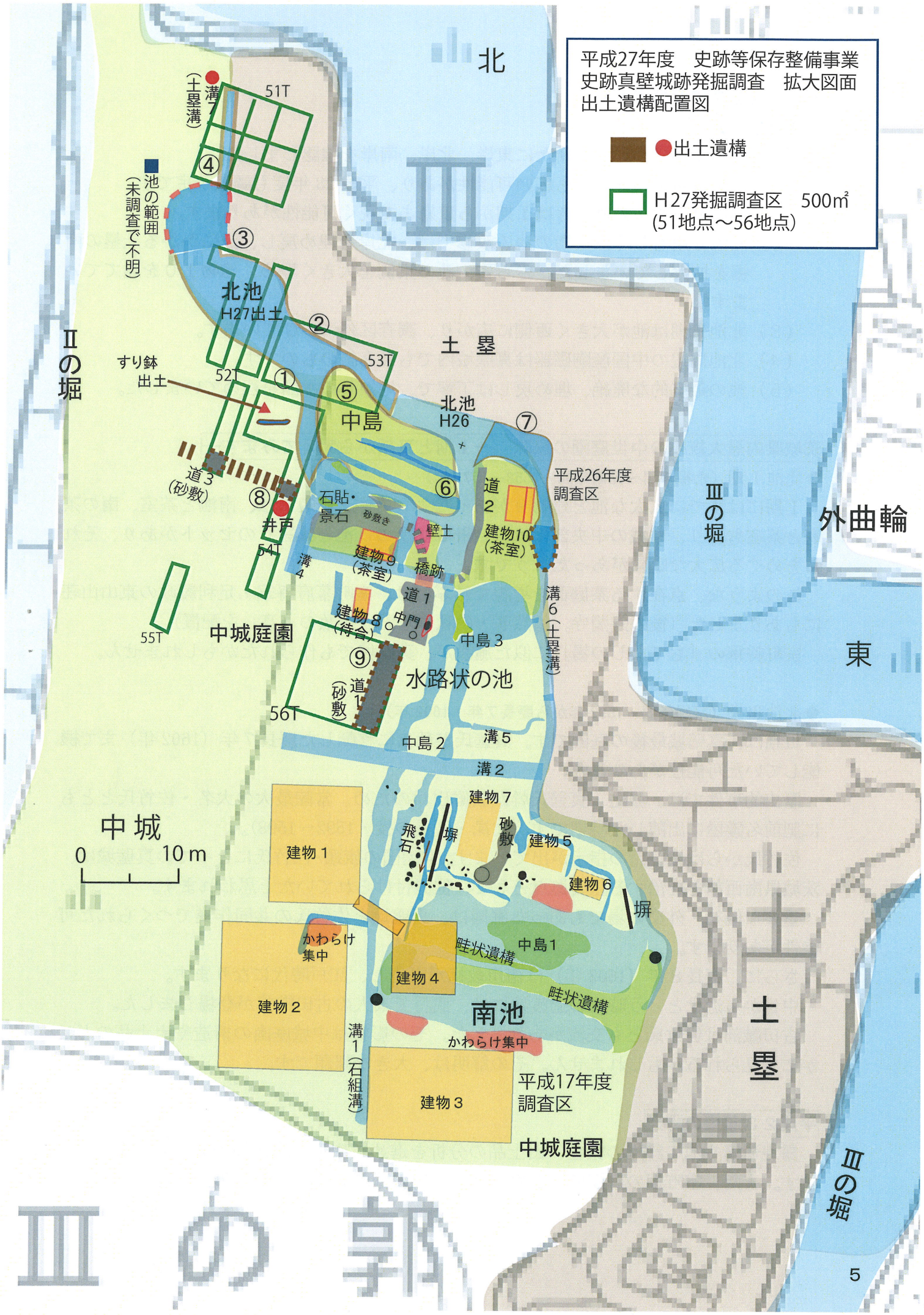
真壁氏幹の時代。池の一部を白色系・黄色系粘質土で埋め、中島や出島をつくる。
中島上にＹ字状の分岐水路をつくる。
池の北岸の一部を埋め、土塁幅を大きくしているようです（最大 1.5ｍ）。

◆北池Ⅲ期（文禄年間・1592 年から慶長７年・1602 年）

真壁氏幹から真壁房幹の時代。
Ⅱ期の中島の上に黒色系粘質土を貼り、中島を大きくする。
中島上に直線状の水路をつくる。この水路はかわらけの一括廃棄あり。

④周辺の施設　　建物の検証と他の施設

建物９：北池Ⅰ期にともなう茶室として建築。慶長７年まで使用。
　　設置方位軸からみると永禄年間以前の成立。
建物 10：北池Ⅱ期かⅢ期の茶室。
　　設置方位軸から見ると天正年間以降の成立。
井　戸：ようやく１基出土。池の西側はすり鉢も目立ち、厨房施設があるか。
道　路：砂敷き道。本丸方面から建物９を経て水路状の池へ向かう導線


平成27年度　史跡等保存整備事業
史跡真壁城跡発掘調査　拡大図面
出土遺構配置図
出土遺構
H27発掘調査区　500㎡
(51地点～56地点)
北
溝7
(土塁溝)
51T
④
池の範囲
(未調査で不明)
③
北池
H27出土
②
Ⅱの堀
すり鉢
出土
52T
①
53T
土　塁
⑤
中島
北池
H26
⑦
道3
(砂敷)
⑥
道2
平成26年度
調査区
⑧
井戸
54T
石貼・
景石
砂敷き
壁土
建物10
(茶室)
Ⅲの堀
外曲輪
溝4
建物9
(茶室)
橋跡
道1
中門
建物8
(待合)
溝6(土塁溝)
55T
中城庭園
中島3
東
⑨
道1
(砂敷)
水路状の池
56T
中島2
溝5
溝2
建物7
中城
0　10m
建物1
飛石
塀
砂敷
建物5
建物6
塀
かわらけ
集中
畦状遺構
中島1
建物4
畦状遺構
建物2
南池
かわらけ集中
溝1(石組溝)
土　塁
平成17年度
調査区
建物3
中城庭園
Ⅲの堀
Ⅲの郭

６．平成２７年度のまとめ

新たな成果

（１）北池Ⅰ期について、新たに東岸、北岸、南岸を確認しました。
Ⅰ期はⅢ期の池よりも広い可能性があり、平成28年度も調査予定です。
建物９と周辺の砂敷きはⅠ期からⅢ期まで続く可能性があります。

（２）北池Ⅱ期もしくはⅢ期の池の改修では、北岸を埋め戻し、池にかかる土塁の南裾を拡大していました。さらに、池の東側を大きく埋め、建物１０を建てています。

（３）北池Ⅲ期は池が大きく西側に広がり、調査区外にのびています。

（４）北池周辺の中国産陶磁器は真壁城内でも最高級のものです。

（５）池の最終的な廃絶、埋め戻しは丁寧で、地鎮具の水晶を埋めていました。

茨城県内最大規模の中世庭園の意味　―Ⅰ期とⅢ期から考えてみます―

◆北池Ⅰ期（永禄年間～元亀年間・1558－1573年）

Ⅰ期にはすでに広大な池と建物９があったようです。周辺には、南池と茶室、南の茶庭と茶室もあり、中城の中央部には、合計３箇所の「池と茶室」のセットがあり、それらをめぐる広大な庭園があったようです。

このような、点在する茶庭群を導線で結ぶ姿は、室町幕府将軍・足利義政の東山山荘にもありました（後の銀閣寺。超然亭・釣秋亭など、複数の「亭」を配置）。

室町将軍の「もてなしの場」に似た施設が、真壁城でも作られたかもしれません。

◆北池Ⅲ期（文禄年間・1592年から慶長７年・1602年）

Ⅲ期は、真壁城最後の庭園です。真壁氏が秋田に移転した慶長７年（1602年）まで機能していた可能性があります。

歴史的事件では、城主・真壁氏幹が朝鮮出兵のため、常陸最大の大名・佐竹氏とともに肥前名護屋に出陣した時期です（文禄・慶長の役・1592－1598）。

佐竹氏からは城普請の指示が出ています。常陸国の旗頭・佐竹氏にとっての真壁城は、茨城県南西部を統治する重要拠点として、位置付けられていたと思われます。

重要な儀礼・外交の場でもあった庭園は、真壁氏と佐竹氏の共同作業でつくられた可能性があります。

さらに、慶長８年（1603年）は徳川政権が誕生し、江戸時代になります。

中世から近世という時代の過渡期には、武将で茶人の古田織部が登場しました。

古田織部は佐竹氏とも交流がありました。その影響は中城庭園の構造や出土品のどこかにも見られるかもしれません。その解明は、大きな課題です。

平成２８年度の課題

露地遺構や池の護岸の景色、出土品の分析を進めて中近世過渡期の庭園の姿を解明します。また、室町期の庭園の姿と思われるⅠ期の庭園も可能な限り調査します。

７．出土品

北池付近の主な出土品は、中国産陶磁器、国産陶器、かわらけ、水晶などです。

【中国産陶磁器】　北池付近では、中世最高級の名品が出土しました。
出土したのは破片です。下記の写真を参考にしてください。

 高さ 20.1cm 参考　足利市樺崎寺出土	 高さ 27.6cm 参考：新安海底遺物	 口径 12.6cm 参考：国立歴史民俗博物館蔵
◆白磁四耳壺（はくじしじこ）　**（中国産）** 真壁城初出土。建物９西側付近。白磁の壺で、肩に４耳がつく。平安～鎌倉時代	◆青磁花瓶（せいじかびん）**（中国産）** 真壁城初出土。建物１０北側出土。青磁花瓶の口部分出土。鎌倉時代	◆天目茶碗（てんもくちゃわん）　**（中国産）** 建物９、１０周辺出土。「建盞・けんさん」と呼ばれた。平安～鎌倉時代

【国産産陶器　土器、水晶】　すり鉢は調理具です。土器と水晶は一緒に出土。

 出土状況　第５４地点 池付近ではあまり出土しない調理具が複数出土。	 出土状況　水路状の池（第 45 地点）	 出土状況　水路状の池
◆瀬戸美濃産　すり鉢 北池西側で出土。 付近に厨房施設？ １６世紀末	◆土器（塙世・源法寺地区産？） 真壁城では、大量のかわらけ（土器盃）や土鍋、火鉢等を使用。水路状の池からは、一緒に水晶が出土しました。	◆水晶（原石） 地鎮具。土器廃棄や池の埋め戻しの際に埋めていました。

紙本著色　伝真壁道無像
（県指定文化財）
【桜川市教育委員会蔵】

永禄年間の中城庭園の主、
真壁久幹（まかべひさもと）と推定される人物像。
中世最高級の「白磁四耳壷」を
木槌で割り、刀を後ろに置き、
空を見つめています。
独特な世界観は
何を意味しているのでしょうか。
真壁家伝来の資料。

発　行　桜川市教育員会　生涯学習課
茨城県桜川市真壁町真壁１９８　真壁伝承館
電　話　０２９６－２３－８５２１　ＦＡＸ　０２９６－２３－８５２２
発行日　平成２７年（2015）１２月５日